

京都「一から」の「がみ



2025年11月発行

第89号

〒607-8218 京都市山科区勧修寺御所内町64-3

深草こどもの家 勧修寺園舎

TEL:075-641-8280 FAX:075-642-8588

メールアドレス: mc.kyoto@theia.ocn.ne.jp

計報

岡山眞理子先生を偲んで



令和七年六月五日 岡山眞理子先生が、お病気のため、神さまの元へ旅立たれました。

岡山眞理子先生は、京都コース一期生としてモンテッソーリ教育を学ばれ、赤羽先生、板東先生と共に、京都コース、又、深草こどもの家の設立にも関わり、赤羽先生の右腕として、この三月まで京都コースの重要な役割を担わていらっしゃいました。その間にも、愛媛県の口ザリオ学園長として一年間、たくさんの幼稚園の先生方、保護者の方々へのご指導をいただきました。

突然の訃報でしたが、急遽京都コース夏の講習会の中で「偲ぶ会」を開催することができました。お集まりいただきました皆さま、ありがとうございました。

京都「一から」委員長 根岸 美奈子

京都コース前委員長

宮津暁星幼稚園 園長 井集 直子

モンテッソーリ教育に出会い、京都コースで学んだ日々は、岡山眞理子先生とのご縁につながりました。私にとって岡山先生は、幼児教育に携わるうえでの人生の道しるべであり、心の支えでもありました。そして今もなお、先生のお言葉が私を励まし、導き続けてくださっています。

先生が繰り返し伝えてくださったのは、「子どもの心に寄り添うこと」、そして「子どもの前では常に謙虚であること」。目の前の子どもと真摯に向き合うときに何よりも大切にすべき姿勢を、先生は言葉だけでなく、ご自身の生き方そのもので示してくださいました。

京都コースは、「子どもから学ぶことを大切にし、子どもに寄り添う先生を育てる」場であり、それはまさに岡山先生の思いが形になった学びの場です。子どもの言葉に耳を傾け、心の動きに寄り添い、必要なときにはそつと見守る。そのような保育者のあり方を、先生は時に優しく、時に厳しく、そして温かなまなざしと姿勢を通して、私たちに教えてくださいました。

また、先生は常に人間味あふれる存在でもありました。優しく包み込むような笑顔もあれば、時にきびしい眼差しで私たちを

律してくださることもありました。さらに、おちゃめで愛らしい一面もあり、その全てが岡山先生の大きな魅力であつたと思います。そのお姿は今も私の心に深く残り、生き続けています。

これからも、先生が示してくださいった保育者としての道を忘れずに、子どもと共に歩む毎日を私らしく大切に重ねてまいりたいと思います。岡山先生、本当にありがとうございました。どうか安らかにお眠りください。そしてこれからも変わらぬ優しい笑顔で、私たちを見守り、導いてくださいますように。

京都コース卒業生
ロザリオ学園 海の星幼稚園 園長 上田 礼子

私がコースを卒業して数年後、岡山先生に定期的に園にお越しいただきご指導いたることになり、当学園の学園長も務めていたときました。そこで私はいつのまにか解ったような気になっていたモンテッソーリ教育の実践が、いかに精神が伴つてないものだったのかを思い知ると共に、子どもの心に寄り添い、子どもから学ぶ喜びを教えていただきました。まさしく第二の学びのチャンスでした。私は先生の唯一無二の感性と子どもへの深い愛情がこもつ

たお言葉を私だけがお聞きするのはもつたらないと、「本をだしてください」とお願ひするようになり、ご病気が分かつた時、決意して下さいました。闘病中でしんどい時もあられたでしよう。子どものこと話を話しますといつも生き生きとされていた先生。そして一年半かけてどこをめくつても先生の声が聞こえてきそうな愛情に満ちた本、「子どもから学ぶ」が完成しました。晩年よく「私が一番したいことは、良い先生を育て、良い園を増やし、子どもが良い生活を送り幸せになることなの。」とおっしゃられていましたが、この本を手にした教師、保護者の方など、子どもと関わる全ての人を、これからも育て続けてくださることだと思います。

今の時代、スピードや利便性ばかりが求められますが、そうしたものとは相反するところに搖るぎない価値を置き、心を込めて、じっくり丁寧に生きなさい。と示してくださった先生。すべてを包み込むような優しい笑顔。時に子どもの前に立つ自覚を教えてくださった厳しいお顔。趣味のお話や失敗談を話されながらフフフッと笑うチャーミングなお顔。聞かせていただいたフルートの音色や透き通る歌声…。忘れません。

先生が天に召されて数か月が経ちますが、私は今でも事あるごとに、この事を先生にお伝えしたいなあ。先生は何でおつしやるだろう。と考えます。これからも私は「先生はどう思われますか」と問い合わせながら過ごすことだと思います。なので、どうぞ違った方向に行きそくなつたら、謙虚でなく傲慢になつていたら叱つてください。「上田さん、それあかんわ」と。

どうぞこれからも導いてください。

京都コース十四期生 深草子どもの家旧職員

岡本（野間）久子

岡山先生との出会いは四十年前です。ごどもの家で六年間、先生と子ども達と一緒に貴重な学び、恵みの時でした。退職後も、お電話、お手紙をくださつたり、近くに来た時には寄つてくださつたりしました。そして、ここ十年程は参加させていたフルートのアンサンブルコンサートに呼んでいただきたりお出かけしたり、楽しい時を過ごさせていただきました。

御病気になられても、治療の合間を縫うようにコースのお仕事、講演、本を出す準備など積極的に動かれていました。遠方の講演など、しんどくないですか?と伺うと、皆さんにお話しできるのは嬉しいと答

えられました。

前から、いつかは行こうと話していた鹿児島への旅。以前子どもの家に勤めていた先生との再会も昨年六月に実現されました。先生はクリスチャンでいらっしゃいましたが、お仕事など忙しくされていたので教会の活動がありできなかつたそうです。二〇二三年のクリスマスに久しぶりに教会のお台所に入つて、お手伝いできて嬉しかつたと、「当たり前のこと」と教會の人に話されたそし体調が悪くなつておられました。

「夢だけど一つやつてみたいことがあるのよ」と話されたのが大文字山登りでした。子どもの家で毎年登つていた山登りです。四月下旬、緩和ケア病棟に入られました。大文字山がとてもよく見えるお部屋でした。子ども達と何回大文字山に登られましたか?どうかがい、二人で計算したら三十回位は登つておられる事になりました。「皆さんよくしてください。私は幸せ感謝しているのよ」といつも話しておられました。

先生の生きぬかれた人生、御一緒でき、感謝でいっぱいです。

一九九三年度深草子どもの家卒園生

小椋（人見）百合子

真理子先生は私にとって初めての先生であり、今も変わらぬ優しさに満ちた姿が心に残っています。小さな私たちの目線に降りて、話したいことをしっかりと聞き取つてくれました。小さな私たちは安心感は、大人になつた今も心に温かく残っています。

卒園後も毎年年賀状をやり取りしました。美しい文字や旅の報告は、先生の人柄がにじんでおり、毎年の楽しみでした。先生のお宅でお鍋をご馳走になつたこともあります。飾り切りのしいたけが入つていて、それ以来、家でも真似をしています。後日「デザートを出し忘れて落ち込んでいる」と届いたはがきも、先生らしいお茶目な思い出です。娘が生まれてからも、先生は私の家に遊びに来てくださいました。繊細な娘がすぐに懐いたことに私は驚きました。娘が先生の近くを通ろうとすると、先生が手でそつと通せんぼをして「あれ、通れないね」と遊んでくださいました。そのとき娘は家族にしか見せないような笑顔を見せて本当に楽しそうでした。また、おもちゃの取り合お友達をじつと見つめる娘を見て先生は「娘さんが觀察してるね」とおつしゃいました。子どもの心の動きを丁寧に見

つめる先生の姿に、深く胸を打たれました。六月五日に先生の入院されているホスピスを訪れました。数時間前に先生は息を引き取られた後でした。ホスピスは緑に囲まれて、窓からは子どもの家のみんなで登つた思い出の大文字山が見えていました。「おぶつてくれた登れる」と、お茶目にご家族に話しておられたと伺い、先生らしいなど笑つてしましました。最後にお話しできなかつたのは本当に残念ですが、それでも、静かなお別れの時間を持てたことをありがたく思っています。真理子先生の優しさとまなざしと、鈴のようにまあるい優しい声をずっと忘れません。

深草子どもの家卒園生保護者 バイオリニスト 吉村（潮見）裕子

真理子先生との最後のお別れは、ご逝去の一週間前のことでした。先生が最もお好きだった讃美歌「アヴェベルムコルプス」を、ヴァイオリン演奏でもう一度お聞きいただきたい、と願いつつお別れしたのが最後となつてしましました。

私と息子は、二十数年前、深草子どもの家にご縁をいただきました。真理子先生は、いつも先生は「娘さんが觀察してるね」とおつしゃいました。子どもの心の動きを丁寧に見

子とも、心から満ち足りた幸せな時を過ごさせていただきました。子どもの家での思い出は生きる上で大きな力になっていますことに、今も感謝の思いでいっぱいです。

いつも凛とした、透明感をお持ちの真理子

先生から、私はいつか「教育」について学ばせていただきたい、と願いつつ、その気持ちを先生にお伝えしそびれておりました。今年初め、思いがけなく先生から御著書をお送りいただきました。その中には、試行錯誤しながら子どもと信頼関係を築いていくお姿、私のお聞きしたかったことがすべて書かれていました。そのお礼のお電話で、初めて先生のご病状を知りました。私は、もつと早く先生にお会いしに行かなかつたことを悔いました。緩和ケア病棟には楽器を持つて度々伺い、色々なお話をさせていただきました。モンテッソーリ教育と初めて出会われた時のことには、まるで昨日のように、生き生きと弾んだお声でお話くださいました。病室で御親戚の方々と偶然お会いし、皆さんで讃美歌を歌つていただいた時間も、かけがえのない思い出となりました。「教育で、最も大切なことはなんですか」との問いに「指導者の持つ空気感が、何より大切です」と、かみしめるようにお答えくださいたお言葉は、私の宝物です。子どもの指導に迷ったとき、先生ならど

うお考えになるだろう、と考えるようになりました。珠玉のご著書が多くの方々の希望の種子となり、未来に花を咲かせ続けますことを、心よりお祈り申し上げます。

叔母 岡山真理子のこと

福岡 里佳

十年前、真理ちゃんは、仕事でたまたま私のいる松山によく来てるなあとぐらいいしか思つていませんでした。しかし、松山に第二の拠点として家を借りて、出張の度そこで過ごすようになりました。私は結婚以来親戚が近くにいることがなく、本当にうれしくて、家に遊びに行つたり、ご飯と一緒に食べたり、悩み事を相談したり、姉のようなくやめのよくなつて、いつも寄り添つてくれている存在になつていきました。三年間の二拠点生活を終え、松山を引き上げる日、「実はロザリオ学園の学園長をしてました」と言われ、すごく驚きました。回転すしでシステムに戸惑い、「落ち着いて食べられへんなあ」と目を丸くしてたこと、また、購入したほうきを担いで自転車に乗つていたこと、世間知らずのいる松山に仕事で五回も来ました。来るたびに小さくなつていく真理ちゃんでしたが、もう一度立ちたかつたしまなみ海道の橋の上にも頑張つて上がりしました。その時の笑顔と笑い声が今も忘れられません。

今年の二月「私が書いた本が出たよ」。二度目のかつこいい瞬間でした。「私はね、癌

三年前にすい臓がんが見つかりました。私たち姪っ子は子どものいない真理ちゃんを支えると決心しました。癌を小さくして手術がしたい。その一心で頼れる人、物に頼り、食べ物の制限もし、ありとあらゆる方法を試しました。それはこんな思いがあつたからです。「私は仕事も趣味と見られたフルートも、いつも課題をクリアすることに躍起になつていて楽しくはなかつた。だから、これからは何でも思うがままに楽しみたいの。だから諦めたくない」と。その強い意志の下、半年の余命宣告を次々と乗り越えました。ときどき出てくる弱音はいつも「悔しい…」でした。そして、一年半の努力も虚しく、治るという道は閉ざされ、真理ちゃんと私たちの覚悟の一年半が始まりました。その間も私のいる松山に仕事で五回も来ました。来るたびに小さくなつていく真理ちゃんでしたが、もう一度立ちたかつたしまなみ海道の橋の上にも頑張つて上がりました。その時の笑顔と笑い声が今も忘れられません。

を写真で見て、実はすごい人のかもつて思うようになりました。それからも仕事に趣味に充実した日々を送つてゐるんだろうなと思つていた矢先のことでした。

三年前にすい臓がんが見つかりました。私

たち姪っ子は子どものいない真理ちゃんを

支えると決心しました。癌を小さくして手術

がしたい。その一心で頼れる人、物に頼り、

になつて多くの人に助けてもらつた。私がで
きるお礼の形がこれしかなかつた。」と言つ
てました。その後自宅でもベッドでの生活を
余儀なくされ、出版祝いの会に行けないこと
を残念がつていました。一人で立つこともま
まならない中、私たちが困らないようにと、
家の片づけの指示をしてくれて、自筆での遺
言を書き、主を失う家の管理に至るまで書き
記してくれました。

四月十九日、大切な自宅の庭の草花、部
屋の写真を写し、アルバムにし、見ながら二
人でゆっくり話をしました。そして、次の日、
大きな枝垂桜に見送られながら自宅とお別
れをしました。それからは眞理ちゃんが選ん
だ大文字山の見える病室で食べたかつたも
の全部味わつて、笑つて、来た人それぞれに
「かわいいね」「きれいね」って思わず微笑ん
でしまう言葉をかけてくれました。

そして、六月五日 私が松山から駆け付
けるのも待つて、かつての同僚の方にも見守
られ、放送礼拝の讃美歌を聞き終えて、静か
に息を引き取りました。亡くなつた後に、辛
かつたこともあつたと聞きました。でも、良
き保育者を育てるという強い意志を貫き通
した叔母に敬意を表し、「こともの後ろを歩
く、丁寧な暮らしの中に丁寧な保育がある」
そんな保育を実践していきます。

「生きるお礼の形がこれしかなかつた。」と言つ
てました。その後自宅でもベッドでの生活を
余儀なくされ、出版祝いの会に行けないこと
を残念がつていました。一人で立つこともま
まならない中、私たちが困らないようにと、
家の片づけの指示をしてくれて、自筆での遺
言を書き、主を失う家の管理に至るまで書き
記してくれました。

一〇一五年 夏の講習会（7月26日～27日） 「モンテッソーリ教育と平和の実現」

日本モンテッソーリ協会名誉会長 前之園 幸一郎

モンテッソーリは平和という問題を今か
ら九十年前、本当に深刻に考えました。こん
なにも人々はお互いを憎しみ合つていいの
だろうか？と。そして、そのために軍備を蓄
えております。よその国よりも一步でも精度
の良い軍備を整えようという軍備の拡充に
奔走している。これを見てモンテッソーリは
言うんですね。いくら軍備を整えても、平和
なんてやつてこないと。むしろますますエス
カレートするだけだと。九十年前に言われた
ことが今日そのまま当てはまつていますよ
ね。今のロシアのウクライナに対する様子を
見ていても、何にもしない市民たちのと
ころに爆弾が落ちてくるという、そういう痛
ましい現実があります。そういうことで改め
て平和っていう問題、しかもモンテッソーリ
教育を通しての平和っていうことを考えて
みたいと思います。

今日お話ししたいのは、次の項目です。

一、教育とは平和のための武器であると
いう主張について。

二、平和のための教育

三、「忘れられた市民」としての子ども

四、「よりよき人間」・「新しい子ども」の
形成

五、超自然のなかの子どもと「平和」

一、教育とは平和のための武器である

それでは、『教育とは平和のための武器で
ある』というモンテッソーリの考え方を見て
いきましょう。これは有名な言葉です。モン
テッソーリの言葉でよく知られている言葉。
L'educazione è l'arma della pace. 「レドウカ
ツイオーネ エ ラルマ デッラ パーチェ」ラ
ルマつていうのは武器。パーティは平和です。
武器をいくら揃えても平和はやつてきませ
ん。その武器に代わるものとして教育を我々
は整えなければいけない。ところがモンテッ
ソーリに言わせると、今日の教育の現状を見
るとですね、武器が発達したスピードに比べ
ると、今の私たちが行つている教育は、まだ
「弓と矢の段階」にあると。科学技術だけ一
方的に進みすぎて、教育の側面に目を向ける
と、いっぱい課題が残されている。そういう
ことをモンテッソーリは指摘するんです。モ
ンテッソーリ教育そのものが平和ということ

をみなす教育であるということを私たちは考
えて、これから教育に臨まなければいけない
という、そういうことを言つております。

どういう点が間違つているのか。今日の教
育が誤つているのはどういうことかとい
うと、これは「競争だ」つていうんですね。競
争の原理で教育が行われている。今若干、考
え方も新しくなりつつあるかもしません
けれど、現実的には競争です。人と張り合つ
て、人をかき分けてでも先に進もうというこ
とで、それは何のためにかつていうと、立身
出世のためだつていうんです。人よりもいい
社会の中で一歩でも人を搔き分けて上に立
つという、そういうことが原理になつて、こ
れは昔も、今でもそつた。受験戦争を見る
と分かりますよね。未だに熾烈な受験戦争が
展開していて、小学生でも塾に通わなければ
親は落ち着いておられないという状況です。
そういうものが教育の一一番根本的な過ちで
あるという。

つまりそれはどうしてかつていうと、私
たちは大きな力に支配されて、自分で考える
んじやなくて、私たちを覆つている社会的な
抑圧があつてですね、その抑圧に命令されて
いるロボットみたいにして勉強している。自
分で勉強したいから勉強するんじやなくて
勉強するように仕向けられている。しかもそ
の勉強というのが、モンテッソーリが考えて

いる勉強と違う勉強。頭だけを訓練して、特
訓して、知的な能力を人より抜きん出た状態
で維持し、それをさらに推し進めるという考
え方に立つていうわけです。

じゃあ何がどうすればいいのかという
と、『人間の心の世界に目を向ける必要があ
る』つて言うんです。私たちは体だけで、肉
体だけで生きているわけではありません。こ
れは平和と関係ありませんけれども、モン
テッソーリがかつて言つた言葉の中で、人は
パンのみに生きるにあらずと。胃袋が満ちて
いたら、それで満足だつていうわけにはいか
ないんだつて、聖書の言葉を引いてですね、
私たちは、心の飢え、私たちの心も飢えてし
まつて、栄養失調になつてゐることはな
いだろうか。体は、飢えてしまつて栄養失調
になると、身体的にいろんな故障が出てまい
ります。心もやつぱり栄養失調になるとい
ふことはあり得る。心が貧しくなるなどどうなる
か。これは胃袋が、食べ物を欲しがると同
じように、心だつて食べ物を欲している。

それは何だらうかと思つて、それは三つ
言いました。まず一つは、ヴェリタ(Verità)つ
て言いました。ヴェリタ(Verità)つていう
のは真実。子どもだから本当のことを知らな
いでもいいつていうわけにはいかない。子ど
もの心が満たされたためには、本当の真実
を、子どもを知る、そういう必要がある。

それから二つ目に美しさが必要だと。つま
り、綺麗なもの、心が和むもの、それから美
しいもの、そういうものを見たり聞いたり、
体験したり、あるいは触つたり、そういうこ
とをして心の飢えは満たされると。

そして、その次にクオーレ(cuore)とい
うことを言います。クオーレ(cuore)つて
いうのは愛、ハートと意味です。優しい言葉
がけ、あるいは優しい取り扱いとか、優しく
受け答えしてもらうこと。あるいはあの優し
い眼差しで見守つてもらうこと。そういうこ
とがなければ、肉体だけが、胃袋だけが満足
したまともな人間になるつてことはありえ
ない。心も十分に栄養不足にならないようにな
らぬのにもかかわらず、今の私たちはどう
でしよう? というわけです。

結局、知的な競争で、人を蹴落としてで
も上に立つということになるとですね、競争
の原理つていうのは、孤立する人々を孤立さ
せる。お互いに手を取り合つて、総合的にお
互いを助け合つていうような関係が全然
そこには見られない。そういう競争原理の教
育が一番今日人々を不幸にしているんだと
モンテッソーリは考えたんです。

*この続きは来年発行の「自由を子どもに」
に掲載予定です。

幸一郎先生だつたんです。

「なぜ『自由を子どもに』なのか？」

～教育の本質から考える～」

熊本大学教育学部准教授 苦野 一徳

教育については、私は高校の時、いえ小学校の低学年ぐらいから「教育ってなんだ？」ってずっと自分の頭で考えていたけれども、実は二五〇〇年以上に及ぶ、いや、二五〇〇年どころじゃありません。教育といふのは人類の誕生と共にありますから、三十九四十万年の歴史を持つていてるわけですね。三十、四十万年人類がずっと教育について考えてきた。このずっと教育について考えてきた、その先端をいついていた人たちの思想に初めて触れた時に、自分の頭だけで考えていたのとは全然違う世界が広がっていた。こんなにも深く、深く、教育って考えられていたのかということを知つて目が開かれたんですね。それからまあ、貪るようにプラトンを読みました。アリストテレスを読みました。前之園先生はピノキオの教育思想つていうのもお書きですよね。そういったものもたくさん学ばせていただきました。そして、モンテッソーリに出会わせていただいたんですね。私のモンテッソーリとの出会いは前之園

「愛」っていう本を書いているのですが、例えますね、愛とは何なのか答えられますかつて言わされた時に、「愛とはこうである」つて一番本質をついた言葉にするのつてとても難しいですね。これを言葉にして、「なるほど、それは言える」つて言葉にするのが哲学です。愛が何か分かれば、じゃあどうすれば豊かな愛を生きることができるか原理的に考えていけるようになるんですね。逆に言うと、愛とは何かが分からなければ、何をどう考えていいか分からないので、道に迷つてしまふんですね。

例えます、「自由はいかに可能か」という本を書いておりますが、これはまさに「自由とは何か」なんです。「なぜ『自由を子どもに』のなのか」つていうことに通ずる「自由とは何か」なんですね。あるいは「良い社会とは何か」つていう問い合わせた本もあります。この問い合わせないと、じゃあどういう風に私たちは社会をつくつていけばいいのかが分からないし、自由つて何かが分からなければ、じゃあ自由な教育つて何、自由になるための教育つて何、子どもに自由をつてどういうこと？答えられないですね。とこども本質を考え、それを言葉にする。これが哲学の命で、

そのための考え方を二五〇〇年にわたつて積み上げてきたのが実は哲学です。

教育学者としては、まさに哲学的に「そもそも教育とは何か」「良い教育とは何か」これに答え抜くということを大事にしてきました。これもちゃんと言葉にして答え抜けないと、教育の世界というのはもうみんな主義主張とか信念とか、ほんんど趣味の次元でいつも戦い合つてゐる世界ですね。いつも好き嫌いで語られるのです。みんな教育の経験を持つていてますから。教育を受けた経験がありますから、言いたいことはいくらでもあります。でも、これをみんな好き嫌いで語っちゃう。でも、好き嫌いで語つていたら、やっぱり教育をみんなでより良いものにしていくことなんてできないんですね。そういう時に、「そもそも何のための教育か」つていうことをちゃんと考え方抜いて、言葉にしきるということ。これがやっぱりすごく大事で、私はそのことを大きな仕事の一つと考えてやってきました。その上でじゃあどうやつたらそんな教育つくれるのかなつていうことを、まあ様々な著作などで提示して、今はすごく多くの先生方と、学校づくりであつたり、授業づくりであつたり、カリキュラムづくりであつたり、この後ちょっとお話をしますけれども、たくさんの自治体の皆さんと新し

い教育のあり方を模索して一緒に学校づくりをするということをご一緒しています。

モンテッソーリ教育は私にとつても原点の一つとして、モンテッソーリ教育にはこれからどういう教育をしていくかという、そのための知恵が、そしてアートが詰まっているんですね。たくさんその知恵を学ばせていただいて、今の学校教育界に、どんどんその知恵を送つていっていただきたい、私たち学ばせていただきたいと心の底から思つています。今日はそういったですね、交流の場にも是非させていただきたいなって思つております。これから教育をどうしていくかっていうことは、この後、たっぷりお話ししたいと思います。

私は、モンテッソーリ教育は決して専門ではないんですけど、先ほど申し上げたように、まあ大好きなんです。前之園先生から学んで以来ずっと親しんできて、モンテッソーリメソッドもたくさん学び、その本も翻訳だと多分モンテッソーリ法っていう古い本を大学院時代に仲間たちと精読して議論するというようなこともやってですね。そしてまあ国内外、様々な実践の方を見に行かせていただいて、いつも学ばせていただいています。昔西日本新聞に連載をしていた時がありまし

て、そこでモンテッソーリのことを書かせていただいたことがあつたり、ボイシーフィラジオみたいなのがあるんですけど、こちらでモンテッソーリについても熱く語らせてもらつたこともあります。

今日は私の（哲学の）専門的な観点からなぜ「自由を子どもに」なのかっていうことを一緒に考えていただくなつて思つています。大きく三つの話をしたいと思つています。

そもそもやっぱり教育つて何のためにあるのか、これ答えられないと私はさつき言った通り、いつまでも教育つて混乱が続くと思つていますので、これにまずは哲学的に答えを置くということをお話したいと思います。そして本題ですね。なぜ「自由を子どもに」なのか。前之園先生のお話で、子ども観の話がありましたが、やつぱり本質的な子ども観、改めて皆さんと共有したいなって思つております。そして、これから教育はどうな風になつていくのか。今百五十年ぶりに大きく教育が変わろうとしています。それはどんなものかということ一緒に見ていくた

*この続きは来年発行の「自由を子どもに」に掲載予定です。

京都モンテッソーリ教師養成コース 二〇二五年 モンテッソーリ教育

夏期講習会報告

講習会終了後、参加者の皆さんからたくさん感想を頂きましたので、一部紹介させていただきます。

〈全体会〉 (前之園幸一郎先生の講演)

・私たちがしている教育が、人格形成に繋がり、それがこれから世界平和に繋がっていくという大きな規模のお話を聞かせていただき、私たちの役割の大きさを改めて感じました。

- ・私たちが関わつてている子どもたちがこれらの世界を作つていく存在だということをもう一度認識し、子どもの育ちを助けることがこれから世界や社会をより良いものにしていくことに繋がるということを思いながら保育していきたいと思います。
- ・子どもは弱々しく無防備な存在ではない。子どもは生まれながらにして人間を作つてゐる存在である。それを支えるのが教師、大人の仕事である。というお話の中で、私たちが出来ることは何か、改めて重要な仕事をさ

せて頂いていることを感じました。

・私にできることは、日々子どもたちと笑顔で過ごし、一人ひとりの存在を大切にしながら丁寧に関わっていくことだと思います。子どもたちから学び、共に歩んでいけるよう努めてまいります。

(古野一徳先生の講演)

・私たちの今の教育の在り方を考え直すきっかけになりました。子どもにとつて自由の大切さやモンテッソーリが子どもに与えていたる素晴らしい教育について深く学ばせていただきました。

・子どもたちが自由に生きるために、自分のやっている保育で子どもの生きる力が育まれているのか、安心してチャレンジできる、失敗できる環境になつているのかなど、しつかり見つめながらも子どもと関わっていきたいと思います。

・教育の歴史の様なものを分かりやすく教えて下さり、楽しく聴講出来ました。そして、現代の教育の在り方、問題点もわかりました。ここでも、モンテッソーリ教育の素晴しさを感じ、我々が子の教育に携わっている事を誇らしく思いました。

・平和や自由を実現するためには、互いを尊重し、対話を重ねることが欠かせません。それこそが、「自由に生きるために」必要不可

欠なことだと強く思いました。この姿勢は、子どもも大人も、人種や立場に関係なく共通して大切にすべきものであり、世界が平和に向かうための最も根本的で大切なことではないかと感じました。とても貴重なお話をありがとうございました。

(一年を通して楽しい工作の実践 亀田平和の園保育園)

・先生方の考え方抜かれた工作、環境、様々なことを教えていただき本当に本当に幸せでした。子どもに寄り添つた環境設定の中で、どうすれば一人で出来るか、「やりたい」と思えるようにするにはどうすればよいか、私も考えて続けていきたいと思います。

・一年を通して、子どもたちのためにすごく考えて工作をしているのだと思いました。子どもがどこに悩んでいるのか、どこが難しいのかをよく見ていて、すぐに改善するところや難しいポイントも子どもにどう伝えるのかを詳しく聞くことができました。

・一年を通して、子どもたちのためにはどうすればよいか、私が思っているところを教えていただきありがとうございます。一年児でもたくさん活動ができることが、いろいろなことがお仕事になることを学びました。先生のおっしゃっていた、日常のなかの宝を探すこと、今をより良い環境にすること、暮らしをシンプルにすること、どれも大変共感できます。

(子どもが自ら育つ環境を考える)

・大人が決めたレールを歩かせるのではなく、自分で選択できる自由な環境が、大人になつたときにしつかり自分で歩んでいけるのだと思いました。改めてモンテッソーリ教育の良さを感じることができ、とても有意義な時間でした。

・改めて子どもたちとの関わり方、普段の保育の見直しなどを考えさせられる講義でした。

・子どもたちや我が子に伝えることが、保育者としても親としても大切な役割なのだと感じました。

た。気づかぬうちに大人中心の保育になつてゐるのではないか、子どものやりたいことをさせてあげられているのかとても考えさせられました。改めて自分の保育を見直し、良い保育ができるよう考えたいと思いました。

・子どもへの環境の大切さを改めて感じることができました。物の環境だけでなく、私たちの関わり方ひとつでも子どもが変われるきっかけになるのだと思うと、本当に素敵な職業だと思います。これからも時々子どもにとつての自由を思い出しながら考えながら保育を行つていけたらと思います。

(モンテッソーリ宗教教育)

・心が豊かであれば、それは自然と周りの人たちへ伝染していく、広がっていくと感じました。
・子どもの心に種をまく、それが開くのは何時になるのかわからぬ。開くのは自分が決めていくこと。自分が愛されたら周りの人にもあげたくなる、園の子どもたちも沢山愛を受け取り、周りの人にも与えられる人になってほしいと思いました。ありがとうございました。

(ワークショップ)

・実践を交え、大事などころを限られた時間で進めて下さり、とても勉強になりました。今日の学んだことを所属で、情報交換し保育に活かしたいです。(生活)

・具体的な教具のお話や、深草こどもの家のお話を聞けて、モンテッソーリを身近なものとして感じることができて、よかったです。

・先生方が自園の様子もお話してくださいなり、基本はあります、子どもに合わせて行うことの大切さを勉強できました。(生活)

・改めて数の世界の始まり、銀行屋さんまでにどんな数の紹介を段階追つて経験してきたかということを系統立てて再確認できたことが有難かったです。(数)

・銀行遊びでのわり算やかけ算の楽しさを感じることができ、子どもたちと一緒にやってみたいなと思いました。また、数教育の前段階として感覚や生活のおしごとも大事にしていきたいと改めて学ぶことができました。

(数)

訃 報

友井桂子先生を偲んで



令和七年九月三日
友井桂子先生（高田
カトリック幼稚園前
園長）が、ご逝去さ
れました。

友井桂子先生を偲んで

高田カトリック幼稚園 園長

中村 典子

園長先生の突然の訃報に、いまだに信じられない気持ちでいっぱいです。優しく、そして時にお茶目な園長先生の笑顔が、ふとした瞬間に思い出しては、胸がぎゅっと締めつけられます。仕事では厳しい場面もある中、いつも私たちに寄り添い、私たちが、どんな失敗をしても否定せぬあたたかく見守ってくださいました。そして、人を見る時は表側からだけなくその人の裏側まで見なさいと、人をとことんまで理解することの大切さを教えてくださいました。子どもたちに対

友井桂子先生の優しい温かいお人柄が忘れられません。心からお悔やみ申し上げます。

友井桂子先生は、コーススタッフとして、二〇一一年から十四年間、数教育の講師として、基礎コース、専門コースに携わつておりました。いつも子ども主体に考え、謙虚な姿勢を持ち、常に学び続けられた先生でした。これからもずっと、コースを見守つていてくださいることと信じております。

京都コース主任 渡辺 政美

してはいつも謙遜で、丁寧に接しておられました。私たちはその背中を見て、色々なことを学ばせていただきました。

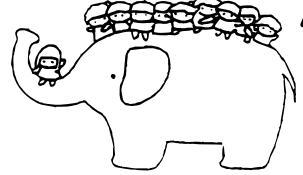
忙しい合間にふいに見させてくれるユーモアや、さりげない気遣いに、どれほど救われたかわかりません。ときにはお姉さんのように、友人のように接してくれた園長先生でした。ムーミンに出てくるニヨロニヨロとバームクーヘンが何よりも大好きだった園長先生、私たちはそんな園長先生が大好きです。

あの穏やかな声、何気ない雑談、優しい笑顔、園長先生と過ごした楽しかった日々はこれからもずっと、私たちの心の中に残り続けます。園長先生はいつも私たちに「私の元気な姿を覚えていてね」とおしゃっていました。だから私たちの心中では、園長先生の優しい笑顔の姿を残したいと思います。

園長先生が大切にされてきたことを心に刻み、子どもたちに対しては、謙遜で、また良き援助者として、一人ひとりの子どもを愛し、一人ひとりを大切に思い、そして丁寧に関わることをこれからも忘れずに励みたいと思います。

園長先生、本当にありがとうございます。

わかば会だより



朝夕少しづつ秋の気配が感じられるようになつた今日この頃。皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、夏に開催されました“自由を子どもに”では一年ぶりに皆様にお会いできましたことを大変嬉しく思つております。またその際、たくさんの方々にわかば会の入会・更新手続きをしていただきましたことに心より感謝申し上げます。研修会後に行われましたわかば会総会では、わかば会の資金現状についての報告と新たな提案を以下の通りさせていただきました。

わかば会は皆様の会費で成り立つている会であり、会費千五百円を納入していただいて会員になつていただきます。現在、その会員特典として、冊子“自由を子どもに”（千五百円）を発刊年に差し上げることと、コースの夏の研修費を二日で一千円引きにさせていただいております。従つて会費収入より、支出が大きでした。

く上回ることになります。これまで歴代の会長さんが貯蓄財源を使いながらやりくりしていただいておりましたが、現在非常に厳しい状況です。そこで、歴史あるこのわかば会をなんとか継続していくためにも、大変心苦しいのですが、これまでの会員特典であります研修費割引を来年度より廃止させていただき、新たな特典としまして、発足時の当会の目的であります“卒業後もコースの仲間たちと互いに学びあい、育ちあえる会”として充実させていく方向で考えていくたいことを、提案し、参加されていた皆様に図らせていただきました。結果、ご賛同いただけましたことに心より感謝申し上げます。合わせて、当日、皆様に新たにどのような特典を希望されるのかのアンケートをとらせていただき、たくさんのご意見を頂戴しました。今後そのご意見を参考に熟慮しながら検討し、今年度中にその内容を決定し、次回のわかば会だよりにてご報告させていただきます。

来年度は日本モンテッソーリ協会の全国大会が京都の地で行われる為、京都コースの研修会はお休みされるとお聞きして

おります。従つて、研修会でのわかば会入会手続きができませんので、次回のわかば会だよりに振り込み用紙を同封させていただきますので、お手数をおかけしますがよろしくお願ひいたします。

今年は、私共の師や、お仲間との別れが続き、言葉にならない悲しさと寂しさに包まれていますが、師の教えや在りし日の様々な思いでは、皆様のなかでずっと生き続けられることでしょう。

わかば会 会長 口ザリオ学園 海の星幼稚園
園長 上田 礼子

【会費納入について】

◎振込先

02 東京 00150-9-82053

京都モンテッソーリ教師養成コースわかば会

◎年会費

1,500円

※長期滞納の方は再入会金 1,000円と

2024年、2025年の2年分 3,000円

計4,000円をご送金ください。

◎問い合わせ先

わかば会 上田 礼子(海の星幼稚園)

〒791-8076 愛媛県松山市会津町6-1

TEL:089-951-1717

FAX:089-952-5766

メール:umino-hoshiencho@blue.ocn.ne.jp

訃報

(滋賀カトリック学園 聖母こども園)

井上美幸園長先生を偲んで



八月十五日聖母被昇天の祝日、前わかば会会長井上美幸園長先生が、神様のもとに帰られました。突然のお別れに何が起きたのか解らず、言葉を失くし呆然としたあの日のことを思い出すと…今もまだ胸が締め付けられる思いがします。

井上園長先生とは二十歳の頃から同じ京都のモンテッソーリ園でお仕事させていただき結婚・出産も同時期だったので仕事や子育ての悩みを分かち合える仲間として共に過ごしました。そして二度目の仲間として一緒にすることになったのが滋賀カトリック学園です。それがやがて園長という立場でお世話になるとは最初は思いもしませんでした。慣れない園長職、その重責に押しつぶされそうになつた時、井上園長先生は親切にアドバイス

を下さいました。その言葉、姿が今も私のお手本です。決して追いつくことの出来ない永遠のお手本です。

聖母こども園新園舎建築にはその心血を注がれ、いつもスケールを持ち歩き、

どの部屋からも中庭のマリア様が見えるよう計算されたと伺っています。大切な子どもたち先生たちのために、ここまでご自身の全てを注がれたその姿は、私達の恩師である相良敦子先生と重なります。きっと今頃、天国で一緒に笑っておられるでしょう。井上園長先生は私達の心の中に、聖母こども園の園舎の中に今もおられると思います。どうかこれからも道するべとして、私たちを導き続けてください、聖母マリア様のように。

滋賀カトリック学園 聖パウロこども園
園長 松井 環



学校法人化プロジェクト進捗状況のご報告

京都モンテッソーリ教師養成コース・深草こどもの家 学校法人設立準備会
長谷川 美枝子

【学校法人化プロジェクト寄付状況のご報告と感謝】

京都モンテッソーリ教師養成コースと附属園 深草こどもの家は学校法人化を目指しプロジェクトを始めてから四年が経過しました。本年6月1日から7月31日までの間、日本最大級のクラウドファンディングサイト CAMPFIRE にて挑戦を行い、多くの応援や励ましの声をいただきました。この期間中、CAMPFIRE 以外からも多数のご寄付を賜りました。2021年のプロジェクト開始以来、883の方々からのご支援を賜り、

2025年9月末日現在、寄付総額は **63,357,793円** になりました。

私たちの挑戦にここまで多くのご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

単なる金額の多寡ではなく、京都モンテッソーリ教師養成コースで学び現場で活躍されている卒業生の方々、社会で力強く歩んでおられる卒園生の方々、保護者の皆さま方、それぞれが「原点への敬意」と「未来への責任」を胸に、理念へ共感を寄せてくださった証であり、さらに、モンテッソーリ教育関係者の方々から、京都コースと深草こどもの家の実践が高く評価された結果もあります。五十年にわたり「本物の教育」を守り伝えてこられた赤羽恵子先生、故岡山眞理子先生の情熱と丁寧な積み重ねにより築かれた信頼と実績、その重みを改めて感じています。

私たちはこの社会的信頼と大きな期待を背景に、京都府・京都市と引き続き協議を続けてまいります。

【ご寄付の使い道と進捗状況】

▼クラウドファンディングリターンの準備と発送

→順次ご用意し、一部発送完了しました。

▼新園舎の建築資金：モンテッソーリ教育の理念に沿った環境づくりの実現

▼学校法人化の準備経費：設計費、認可申請費、安全基準対応工事

教育に高い関心をお持ちで、海外の教育施設の建築にも見識をお持ちの建築士をご紹介いただきました。その方は、すでにモンテッソーリ教育施設の設計・建築の経験を有しており、現在、私たちはその建築士の方と相談を重ねております。

▼京都コース、教材販売事業再構築

現在、学校法人化プロジェクトの事務局長・杉山史哲を中心に、教材開発の見直しやオンライン化、販売促進体制の再構築を進めています。寄付だけに頼らず、事業そのものを拡大・強化し、法人として安定した収益基盤を築くことで、より大きな融資を受けられる体制を整え、最終的には学校法人化のための資金を自ら生み出せるよう準備を進めています。

【私たちの決意】

皆様からいただいたご支援は、私たちにとって「未来への約束」です。

園舎建設予定地には傾斜地も含まれるため、まず擁壁を築く必要があり、寄付目標額には未だ到達しておりません。しかし、引き続き支援者を募り、あらゆる手立てを尽くして、必ずや園舎を完成させ、正式な学校法人として認可を受け、自由で豊かな学びを次の世代へとつないでまいります。

京都モンテッソーリ教師養成コースと附属園深草こどもの家はこれからも、子どもが自分で考え、自分を育てることのできる環境を守り、自由な学び、互いに尊重し合う社会の基礎を育む教育、真のモンテッソーリ教育実践を貫いてまいります。

皆さまからいただいた温かい想いに応えるため、一步一步を確実に、そして全力で歩み続けます。どうか引き続き、この挑戦を見守りお支えください。

現在も『京都地域創造基金』にて寄付を受け付けております。共感と応援の輪がさらに広がっていくことを切に願っております。

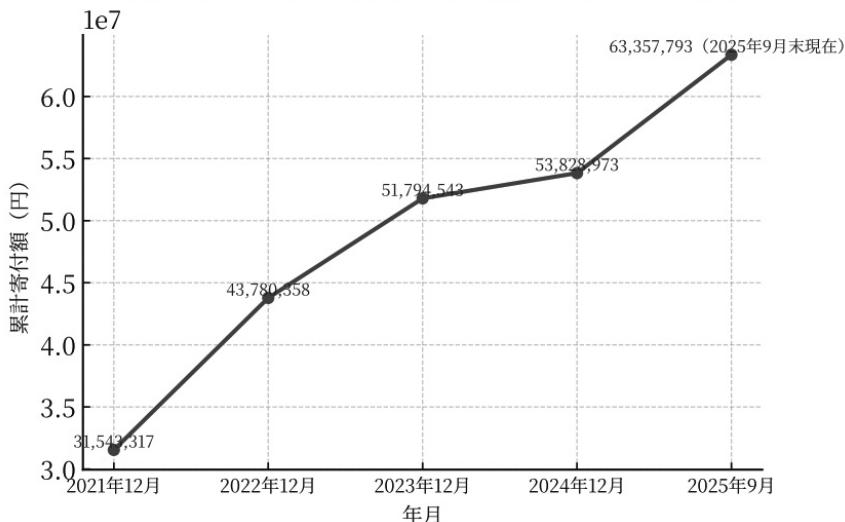
公益財団法人 京都地域創造基金
自然豊かな本格的モンテッソーリ教育実践園の学校法人化プロジェクト



深草こどもの家 学校法人化プロジェクトタイムライン (2019 ~ 2025)

2019 年	学校法人化へ向け、京都府との協議を開始
2020 年	コロナ禍 園舎立て直しが必要であることが判明 学校法人化プロジェクト準備開始（資金計画・体制づくり）
2021 年	コロナ禍 オンライン映画上映会を 3 回開催（実践記録映画「深草こどもの家の一年」 夏：寄付募集開始（京都地域創造基金） 12 月：累計寄付額 31,543,317 円
2022 年	6 月：山科区勧修寺の仮園舎へ移転。園舎建築の必要性が具体化する。 7 月：日本モンテッソーリ協会（学会）にてオンラインワークショップ開催 12 月：累計寄付額 43,780,358 円
2023 年	6 月：学校法人化応援企画オンライン zoom イベント開催（協力：田中昌子さん、あべようこさん） 7 月：京都コース創立 50 周年記念夏の講習会開催（延べ 400 人以上参加） ドイツのモンテッソーリ教育界より、ドイツモンテッソーリ教育財団を通じて 10,000 ユーロの寄付が届く 11 月：京都コース 50 周年記念オンライン特別講演会（協力：ドイツ・モンテッソーリ協会） 12 月：累計寄付額 51,794,543 円 12 月末：杉山史哲さん（生駒市教育委員会教育政策室）が学校法人化プロジェクト事務局長に就任
2024 年	3 月：苦野一徳先生（熊本大学准教授）が来園・保育見学。プロジェクト応援を表明してくださる。 7 月：京都コース主催夏の講習会開催（延べ 400 人以上が参加） 秋～：学校法人化プロジェクト P R 動画制作開始 12 月：累計寄付額 53,828,973 円
2025 年	6 月：CAMPFIRE クラウドファンディング実施 7 月：京都コース主催 夏の講習会開催（延べ 400 人以上が参加） 8 月：累計寄付額 62,822,973 円 9 月末日までのご寄付総額 63,357,793 円

学校法人化プロジェクト 寄付累計額の推移（2025年9月末現在）





第58回 全国大会 in 京都

2026年8月1日（土）～3日（月）

いのちの輝き

～育ちあうこども・大人・社会～

会場：ホテルオークラ京都

日本モンテッソーリ協会（学会）

8/1 土

大会事務局

認定こども園
奈良カトリック
幼稚園

0742-
22-4089

FAX 0742-
26-3261

info@nara-
catholic-
youchien.jp

基調講演

今森 光彦

写真家
切り絵作家
環境農家 ガーデナー
里山環境プロデューサー

特別講演

森口 祐介

京都大学 大学院
文学研究科教授

基礎講座

前之園幸一郎

日本モンテッソーリ協会（学年）
名譽会長
青山学院女子短期大学名誉教授

応用講座

苦野一徳

熊本大学教育学部准教授

応用講座

遠藤 愛

高齢者施設のガーデナー
モンテッソーリ教師

自主シンポジウム
佐々木信一郎

日本モンテッソーリ協会（学年）
会長

研究発表

21人の発表を予定

ワークショップ

京都モンテッソーリ教師養成コース

会場：京都カトリック幼稚園

8/2 日

8/3 月

シンポジウム

テーマ：いのちの輝き
～育ちあうこども・大人・社会～

コーディネーター：阿部真美子

シンポジスト

田崎久子（こひつじ保育園/大阪）

根岸美奈子（深草こどもの家/京都）

勝間田万喜（富坂子どもの家/東京）

安倍陽子（あきる野モンテッソーリ

スクール/東京）

来年は、京都コース主催の
夏の講習会はありません。
全国大会（京都）でお会いしましょう！

子どもの家集団

京都コースで研究開発された教材販売部



今日は昨日の次、今日の次は明日…。

毎日1枚シールを貼って、一か月、一年の長さを体感できる
京都コースだけのオリジナル。モンテッソーリカレンダー



「話ことばから書きことばへの導入」から生まれた
日本で唯一の系統的な日本語の教材

子どもにそなわっている
「自立する心」を大切にする
モンテッソーリ教育の理念にそって
開発された教具教材です。



美しい日本語のために

- 1 「あいうえお」の歌 (歌とピアノ)
- 2 「あいうえお」の歌 (ピアノ)
- 3 「あいうえお」の歌 (女性3部合唱)
- 4 月・日・曜日の歌 (歌とピアノ)
- 5 月・日・曜日の歌 (ピアノ)
- 6 線上歩行のためにI (ピアノ)
- 7 線上歩行のためにII (ピアノ)
- 8 線上歩行のためにIII (フルートとピアノ)



Apple Music

その他
子どものための
魅力的な
教材が沢山！



紙織りセット



幼児用機織り



三つ編みテープ



幼児用包丁



スカッター
(鉛筆削り)

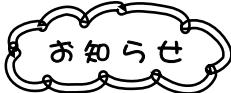
「子どもの家」集団
(京都コースで研究開発された教材の販売部)

*価格改定しました



注文先・発送部 〒612-0838 京都市伏見区深草神明講谷町2-4 FAX 075-645-4181
研究部 〒607-8218 京都市山科区勤修寺御所内町64-3 TEL 075-641-8410





○編入試験

各地方会場での基礎コースを修了された方を対象に、専門コース2年次への編入試験を下記の通り行います。

日時：2026年2月28日（土）9:00～16:00

※受験者の人数によって、終了時刻は変わります。

〆切日以降にお問い合わせ下さい。

場所：京都 深草こどもの家 勸修寺園舎

申込締め切り：2026年2月2日（月）まで

※申込書は事務局までご請求下さい。

聴講のお誘い

（1）京都コース卒業生の皆様

基礎コース・専門コースの授業をもう一度受けてみませんか？卒業されてから間もない方、何十年も経った方、どなたでも歓迎します。新たな発見や学びがたくさんあると思います。聴講料は、1日3,000円です。JAM及びAMIのディプロマをお持ちの方も、1日5,000円で聴講できます。

※聴講ご希望の方は事前に京都コース事務局まで、電話またはFAXでお申し込み下さい。

■ 2026年度 基礎コース日程表 （在籍者は、下記のどの会場でも何回でも受講できます。）

会場 内容	福岡	会場 内容	東京	会場 内容	札幌
生活教育 I	4月 18日・19日	言語教育 I	4月 18日・19日	生活教育 I	8月 5日・6日
感覚教育 I	5月 16日・17日	生活教育 I	5月 16日・17日	感覚教育 I	8月 7日・8日
数 教 育 I	6月 20日・21日	感覚教育 I	6月 20日・21日	言語教育 I	8月 9日・10日
言語教育 I	7月 4日・5日	数 教 育 I	7月 4日・5日	数 教 育 I	8月 11日・12日
生活教育 II	9月 5日・6日	言語教育 II	9月 5日・6日	感覚教育 II	8月 5日・6日
感覚教育 II	10月 17日・18日	生活教育 II	10月 17日・18日	生活教育 II	8月 7日・8日
数 教 育 II	11月 7日・8日	感覚教育 II	11月 21日・22日	数 教 育 II	8月 9日・10日
言語教育 II	12月 5日・6日	数 教 育 II	12月 5日・6日	言語教育 II	8月 11日・12日
土曜日 14:00～18:00 日曜日 9:00～16:00 (土・日)を1回として年8回					
全課程 9:00～16:00 今年は8月5日～12日です					

◎第I過程は、幼稚園教諭・保育士資格のある方はどなたでも聴講できます。

※聴講料は、1日10,000円です。(基礎コース修了者及び専門コース卒業生は、1日3,000円です。)

※聴講希望者は、事前に京都コース事務局まで電話またはFAXでお申し込み下さい。